

おしゃべり通信

No. 237 R1.8.15 発行 如春会 浦田医院

～H29年4月発行 日本小児科医会会報特集～



スマホパンデミック！⑭ ＜スマホ社会の落とし穴＞



2. 「劣化」の実相 -⑧

(6) 情報入手の偏り

塾に行く子供は昭和30年代には「成績が悪い子」「できない子」でしたが、所謂学歴社会が良いものとして定着し始めた昭和50年代末には、「成績が良い子」が偏差値の高い大学に行く＝良い就職先が見つかるという「真実かどうかわからない」偏った価値観で、塾通いを当たり前のことと考えるようになり、今では塾に行っていない児童生徒を探すほうが困難です。

こうやって、私たちはある種の偏った情報下で、それが当たり前だと思って生活しています。でも、例えばアメリカで、塾に行っている子供をどうやって探しましょうか？公文式の学習法は塾が採用しているのではなく、まずは公立学校が採用したのです。

視点を変えてみることは困難ですが、やってみましょう。日本の中ではどう転んでも日本の価値観です。極端に違うところから見ましょう。日本の制度の何が良くて何が良くないかが多少理解できるかもしれません。そうやってわかって生活しているのとそうでないのでは、成長の暁に何か違った結果が出てこないでしょうか？

電子メディア機器をうまく利用することは現代社会人にとっては必要なことですが、私たちがやりがちな間違いは「そこに載っていること全てが大正解」としてしまうことです。自分の中にある種の正解を持っていないと、情報の「良し・悪し」を見分けることはできません。間違った結論に達していてもそのサイトの中では大正解だということはいくつもある現象です。ウェブサイトは様々あって、結局はどれを選んでよいかわからないことも多く、現実社会の中で学んでおこな

いと、何もよいものを得られない結果ともなりかねないことを知っておきましょう。

子供達がどんな目的で電子メディアを使っているかと言えば、建前は別として実際の使用に際しては、そのほとんどの時間を大して必要でもない「情報取得」「聴取」「動画視聴」「ゲーム」等に当てています。情報取得の方法によっては、「考える・工夫する＝頭脳を使う」機会を失っているとも言えるでしょう。

偏りのある情報をそうだと気が付くためには、広い知識が必要で、それに到達するための工夫も必要です。私たちが学校教育で学んでいることは実は「知識への到達方法」を知る事・それが実行できるようにする事・到達するために工夫することが、コツコツとできるようになることであり、テストで100点をとることではないことに気が付いておきましょう。

(以下次号)

(平成29年7月 S.URATA MD.)

収納王子

片付け苦手な子どもにける「魔法の言葉」

どうやって子どもに片付けを教えていけばいいか、「収納王子マジック」こと、一般社団法人日本収納検定協会代表理事の小島弘章さんにテクニックについて伺った記事がありましたので、紹介します★

遊びに取り込みながら片付けが身につく方法や上手な声掛けのポイント、つい言ってしまうがちなNGワードなど、今日から使えるテクニックが満載です！



■片付けは「出す→分ける→しまう」の3段階で成り立っている

「出す」=引き出しなどそのスペースに入っているものすべてを出してみます。モノの総量、重複などに気づけます。

「分ける」=出したモノを使っているモノ、使っていないモノに分けてみます。分けるときは3秒以内で！過去1年間に使ったかどうかで分けるなど基準を明確にすることがポイント。

「しまう」=よく使っているモノは引き出しの手前に置くなど、定位置を決めて収納します。使っていないモノは、人に譲ったり寄付をするなど、前向きに手放してみましょう。手放すかどうか迷うモノは「一時保管箱」へ。納得しないまま捨ててしまうとリバウンド(急にモノを減

らすことによるストレスから生じる、散らかった状態)の原因になるので注意。

同じように子どもにも「片付けの仕組み」を作ってあげることが必要とのこと。その仕組みを子どもと一緒につくっていくことが大切です。

■片付けを遊びにしまう

お兄ちゃんのおもちゃにはグリーンシール、妹のおもちゃにはピンクのシールなど子どもと一緒に決めた目印を作り、それぞれのカラーの箱を持たせておもちゃを集めてもらいます。おもちゃを集めて箱を棚に戻せばゴール。これを「よーい、どん！」で競争します。寝る前を片付けタイムと約束しておくのも大切です。

年齢に合わせてラベリングもお気に入りのカラーシールやイラストをラベルにしたり、ひらがなで書いたり工夫します。

■「捨てるよ！」より「好きなモノを教える」

子どもに対して「片付けなさい！」はNGワードですが、「片付けないんだったら捨てるよ！」もなるべく言わないほうが良いでしょう。つい、言ってしまう一言ですね…モノがあふれて片付かないときは「捨てるよ！」ではなく「この中から好きなモノを5個教えて」と聞いてみてください。そして「こっち(残り)はどうする？お友達にあげようか、バザーにだしてみようか」と聞いて、子どもが納得する形で仕分けの練習をします。

この夏、家族みんなで片付け上手を目指してみては？

参考: NIKKEI STYLE 2019/6/13

文責: 管理栄養士 金柿



「子ども・若者とメディアを考える会」

期日: 令和元年9月20日(金) 19:00～

場所: 玉名都市医師会館3階大会議室

内容: 放課後児童クラブ(学童保育)ってどんなところ？

?笑顔いっぱい「ほうかごのおうち」?

講師: 横島学童クラブ代表 田中 順子氏